

見る目変わる目 — 過去に見えられた「目」を通してものを見る
The various eye to see things



変
わ
る



見
る

10.5 [木]・12.25 [月]

10:00-17:00 入場無料 Admission free

火・水曜日 休館* Closed: Tuesday-Wednesday

*開館日についての最新情報は千總公式サイトをご確認ください



千總ギャラリー [ギャラリー1]

CHISO GALLERY gallery1

10.5 [木]・12.11 [月]

10:00-17:00 入場無料 Admission free

火・水曜日 休館* Closed: Tuesday-Wednesday

*開館日についての最新情報は千總公式サイトをご確認ください



千總ギャラリー [ギャラリー2]

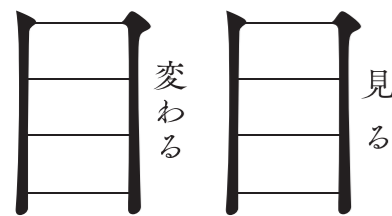
CHISO GALLERY gallery2



丹羽優太個展
なまず
公園

Yuta Niwa solo exhibition
Namazu Park

ギャラリー1 gallery1



The various eye to see things

絵や図は世の中を知る手段のひとつとして、私たちに様々なものを教えてくれます。

江戸時代中期頃に、西洋から伝来した風景画の一種である眼鏡絵が流行しました。線遠近法を強調して描いた風景などが、覗き眼鏡のレンズを通して鑑賞すると立体的に見えるという作品です。

当時の人々は、これによって景色を写し取るための線遠近法的な「目」を得たと言えます。

眼鏡絵によって西洋で発見された線遠近法という景色の捉え方を獲得したように、絵や図から世の中を知ろうとすることは、過去に発見された誰かの「目」を通してものを見ることではないでしょうか。

本展でご紹介する絵や図は、私たちが知らずの内に獲得してきた誰かの「目」に気づくきっかけとなるはずです。

Paintings and images give us information about the world around us.

In the middle of the Edo period (1603-1867), a type of landscape picture known as megane-e (spectacle picture) was introduced from the West and became popular. These pictures were drawn using emphasized linear perspective; when viewed through the lens of a special viewing device, they would produce a three-dimensional effect.

With the introduction of linear perspective, people of that time became able to see landscapes with new eyes.

Through these megane-e pictures, people became able to understand landscapes using linear perspective, a technique that had been invented in the West. In the same way, learning about the world through paintings and images means looking at things through the eyes of someone else from the past.

The drawings and images shown in this exhibition invite us to become aware of how we inadvertently look at the world through someone else's eyes.



富士に松図 1887年(明治20)



小袖 近江八景模様 江戸時代中期(18世紀中期)

ギャラリー2 gallery2

丹羽優太個展
なまず公園

Yuta Niwa solo exhibition
Namazu Park

この度、千總ギャラリーは丹羽優太の個展を開催いたします。

丹羽は日本の伝統的な絵画技法や素材を用いて、地震や感染症など厄災の象徴とされるオオサンショウウオやナマズをモチーフに作品を制作しています。

本展では屋台研究家の下寺孝典とのユニット「親指姫」として発表した鯰型遊具、自転車紙芝居、絵画などを使ったインスタレーション作品「なまず公園」を中心に、本展に向けて制作された新作を展示します。また、隣接のギャラリー1で開催する「見る目 変わる目」展の同空間にも作品を展示。

目に見えないものをいかに捉えて向き合っているのかに考えを巡らせます。

Using traditional Japanese painting techniques and materials, Niwa creates works using motifs such as giant salamanders and catfish to symbolize disasters such as earthquakes and infectious diseases.

This exhibition will feature "Namazu Park," an installation work using catfish-shaped spring rider, a bicycle picture card show, paintings, presented as the unit "Thumb Princess" with Takanori Shimodera as a food stall researcher, as well as new work created for this exhibition.

His work will also be on display in the same space as the "The various eye to see things" exhibition held in the adjacent Gallery 1.

This exhibit ponders the question of how to capture and face that which cannot be seen.



波濤大鯰図屏風 丹羽優太画
(両面屏風〈表〉須弥山行旅図屏風 青木芳昭画)
2022 光明院蔵



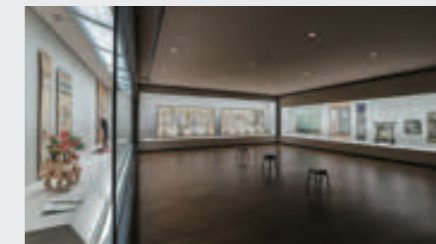
丹羽優太(にわ・ゆうた)

画家。鯰や大山椒魚などのモチーフを中心に、人々には見えない厄災、抵抗できない力が常に黒い何かに見立てられてきた歴史に着目し作品制作を行う。2019年に京都芸術大学大学院ペインティング領域修了した後、北京へ留学。現在は京都を中心に活動中。近年の主な展覧会に MIDTOWN AWARD2021(グランプリ、東京ミッドタウン、2021)、個展 なまずのこうみょう(東福寺塔頭光明院、2021)、やんばるアートフェスティバル 山原知新(大宜味村立旧塩屋小学校、2021)、アートアワード丸の内2019(ゲスト審査員賞、新東京ビルディング、2019)、KUAD ANNUAL2019 宇宙船地球号(東京都現代美術館、2019)などがある。

千總本店 2F 2nd floor of the CHISO Flagship store

千總ギャラリー CHISO GALLERY

文化の発信地である京都で460余年続いてきた千總。工芸とアート、伝統と創造、過去・現在・未来などが交差するこの場で、新たな美との出会いをご提供します。



ギャラリー1

千總の美の源流として時代を超えて受け継いできた小袖、屏風などの所蔵品を、年に4回程度テーマごとにご紹介します。ブランドの美意識やものづくりに対する精神性、日本の文化などを伝えます。



ギャラリー2

感性や理念が共鳴する現代の作家の作品を、千總のキュレーションによって展示します。美を未来に向けて生み出すことなど、ブランドの創造性を伝えます。

京都市営地下鉄「烏丸御池」駅 6番出口より徒歩約3分
阪急電鉄「烏丸」駅 22番出口より徒歩7分
●車椅子でご来館の方へ
エレベーターでのご案内が可能です。ご利用の方は、店内係員までお申し付けくださいませ。



千總についてはこちら
(千總ブランドサイト)

TEL 075-253-1555 FAX 075-253-1700

604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町80

80 Mikura-cho Sanjo Karasuma Nishiiru Nakagyo-ku Kyoto-shi 604-8166, Japan

